

第14回 国連ヴェサック祭 スリランカ のコロombo、BMICHを会場として開催



四月下旬、スリランカの法務大臣が来山。今年のヴェサックはスリランカにて開催するので是非出席してとの依頼を受けた。開会式は五月十三日で十四日会議、十五日はキャンデーに移り佛齒寺境内にての閉会式との事である。丁度、白隠禅師二百五十年遠諱法要が十日、十一日と妙心寺

にて厳修されるので十三日の開会式には出席出来ないが、十四日午後より十五日閉会式には出席可能なる由を伝えると、それでも良いから是非出席してもらいたいとの返事で至急、台湾の北投・普濟寺一行の来日の日時の変更と、更にJOC早朝坐禅会等の変更を打診し、各々許可を得てヴェサック出席を五月に入って決定した。到着及び離陸時間等を先方に連絡して、手続き上完了となる。往復共に深夜便で体調如何と今回は急な決定の旅となり、スリランカでの法要等不安の中、十二日正午三十分米国法要団参一行八名を靈雲院より送り出し、急いで支度し、関空発にて先ずはシンガポールへ。十三日朝五時〇五分着。到着ターミナルが三つもある空港で、どうなるかと思うもシャトルに乗って移動、ゲートに無事到着し、八時五十分発にてコロomboに十時十五分到着す。スリランカは先師無文老大師のお伴で三十数年前に行って以来五回程訪問しているが、空港は全然建物が改められて様子も分からず、出口へと向かう途中ヴェサックの関係者の出迎えがあり、入国手続きをしていただいた。しかし、ここで問題が生じた。つまり、今回スリランカ行について以前より浜松の高橋氏が一度前大統領建立の寺へ案内したいとの話をしていたので黙って行く訳にいかず、五月に入り確定してから連絡すると、自分も是非同行したいとの事で十一日に前もってコロomboに着いて待っているとの事で、多分出口で待っていてくれると思ひ係の人に依頼し、その由を伝えらう。

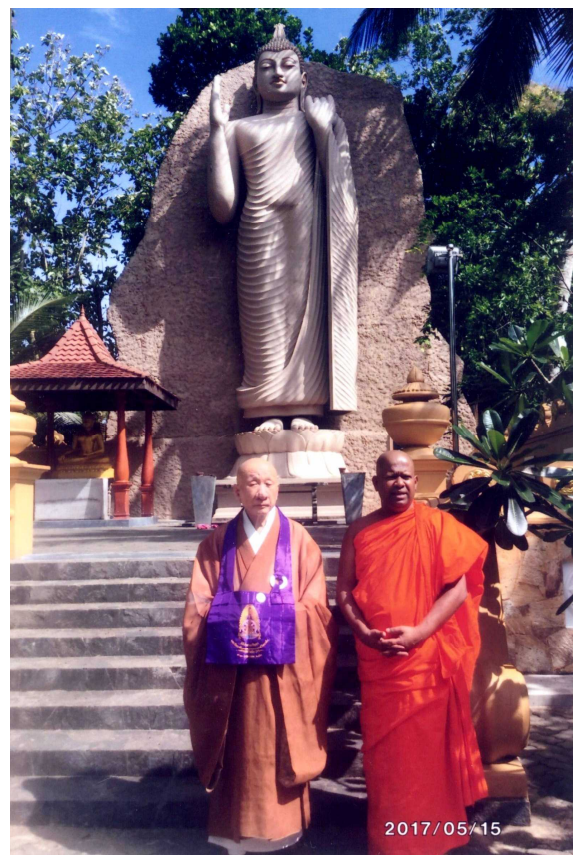
荷物を取って出口に向かうと案の定、高橋氏とホテル社長が出迎えてくれ、その側に、後で分かるが今回全ての責任を持ったスリランカ僧のスジワー・テロ師が出迎えてくれた。早速挨拶の後、手配の車にてコロombo市内に向かう。途中、各国の旗が立てられた会議場を見ながらホテルに着く。十四階建のこのホテルはインド洋に面した景色の良いホテルで宿泊の部屋九階からはインド洋が全望される処であり有難し。三人と日程等を話し合い、先者この係の和尚の寺へ夕方までに参拜することとなり出発する。ホテルから車で二十分程のマヒンダ・ラジャマクテ寺は街の中の美しい寺である。屋外に釈迦如来像が安置されて、部屋に入ると別に小さな仏壇があり、各々に心経を誦経し、住持ヤサシ師より歓迎の挨拶をうけ食堂に連れられて昼食を頂戴する。勿論、寺の和尚たちは食事をしない。ただ接待につとめて下さる。ゆっくりとスリランカ料理(主としてカレー風の辛いもの)をいただき、記念撮影をして退出してホテルに帰る。それより旅の汚れをシャワーにて落とし、六時出発、劇場へ行く。ヴェサックを祝してベトナム、中国、スリランカの代表が踊りを披露する。七時より九時まで熱の入ったショーで一同熱心に見とれる。拍手の内に全てが終わり、屋外では夕食の接待となる。テントの内で種々の料理があり、バイキングで自由に欲しいものをよばれる有難い催物である。台湾の浄耀法師と出会い、早速に来年のヴェサックは台湾で行なうとのことで、案内状を拝受。このあと一緒に夕食をとり、先に席を立ててホテルに帰る。朝四時前より次々と用事のあった多忙な二十時間がやっと終わり、シャワーを浴して十二時半やっと就寝す。



十四日(日)朝五時起床。六時朝食後、六時四十分出発、バスにてコロombo駅へ。八時半出発、キャンデイ行きの列車へ案内される。タイのマハチュハ・ロンコン大学学長とサワイ師等と同行。スリランカの担当大臣等が同乗し、約二時間半の乗車にて十時三十分キャンデイへ到着。駅前広場にて

歓迎行事。スリランカ独特の踊りと舞いが披露される。その後バスにてホテルへ昼食となる。

マハチュハ・ロンコン大学学長とサワイ師と仏歯寺の関係僧侶五名と同席し昼食を美味しく頂戴する。南方の坊さん達の大食には驚く。従って体もよく太っている健康そのものの感あり。午後一時三十分出発し、仏歯寺へ。仏歯を参拝しようにも、人また人で混雑し、子供の悲鳴が聞える。元に戻り、以前数回参拝しているので別のルートを知っているの、それを試みるも最前に到りて混雑にあい、ゆっくり参拝しようにも、早くとせき立てられて参拝もゆっくり出来ず、昼食を共にした坊さんと笑顔で挨拶して退出する。屋外に出て南風の涼しさに汗をとり、寺の境内に設けられたテントの閉会式会場に行く。待つこと一時間半。午後三時半に壇上に案内され、又、待つこと一時間。四時半やっと閉会式となる。中国より明生副会長参列、日本側は数名の若い僧侶の姿を見るのみ。主要僧侶の挨拶があり、午後六時半無事閉会となり、境内前のクイーンホテルにて一人夕食をとる。案内のスジワー・テロ師は夕食はとらないし、終って車を手配してくれて午後八時出発。運転手は猛スピードにてコロomboに向かってくれて午後十時四十分頃にホテルに到着。荷物の整理、シャワー等で十二時半やっと就寝する。十五日(月)朝七時起床。朝食後、荷物整理等をしてチェックアウト、十時十五分高橋さん二人来りて手配の車にて出発。高速にてスリランカ南端のマタラにある前大統領の檀那寺ハウトウディヤ寺を訪問。この寺を参拝することが高橋氏の念願で、住持ウナナンダテーラ師の出迎えを高速を約二時間半走って午後一時到着する。早速、本堂を参拝献香し、その後、屋外の大佛を参拝し客殿にて昼食をいただく。大変な心のこもった食事で一時間程かけてゆっくりと頂戴し記念撮影後、再会を約し、社長の店へ案内される。日本式のマーケットでアイスクリームを頂き森の中へと車は入って行く。スリランカの家はこの様な樹木の生い茂った密林風の中に建っている。やはり、木陰で涼しいことを重要視している。七曲八曲する細い道を約三十分走って海辺に出て、そこに社長経営のリゾートホテルはあった。早速部屋に案内されて七時まで休息する。七時レストランにて軽い夕食をよばれ、外は波の音であたかも車の騒音の如き響きである。七時四十五分写真をとった後、出発。来た道を又戻る。ところが、その家々にネオンが



輝き、七色の美しさ、それがまた点滅してヴェサックを祝福しての各家の催しである。各家同じものではなく、各々に趣を異にしたすばらしい光景である。その後、高速を走り無事十時四十分空港に到着する。スジワー・テロ師の手配で出国の手続き、荷物預り等誠にスムーズに進められ、高橋氏と社長と三人で十二時まで語り、日も変わったので二人は、又車で二時間半余の道のりを走って帰って行く。十二時四十分係の人の案内で荷物検査もスムーズに機内へと入り、座席にゆっくりと安んずる。有難い思いで夜食を食し、約一時間ほど寝たところでシンガポールへ着く。午前七時三十分でターミナル②に到着で大阪行はターミナルでバスにて移動し、ゆっくりゲート前に着く。それより約五時間待ちの時間つぶしである。白隠禅師の原稿を書きはじめ十二時書き終り。十二時四十五分荷物検査をゲート内で受け、待つこと廿分。十三時二十分頃搭乗し、五十五分出発。一路関空への旅となる。空席多く楽な飛行となり関空に廿一時三十五分頃到着となる。

ヴェサック

於スリランカ佛齒寺

曾尋三十数年前
佛齒增輝滿大千
今日重来無限憶
南風拂地綠錦錦

United Nations Day of VESAK 「ウェーサクの日」とは？

ウェーサクの日は、仏陀の誕生だけではなくその悟りも祝い、また、仏陀の入滅も記念する日です。1999年12月15日に国連は、ウェーサクの日を世界の重要な日として認識し、このウェーサクの日に世界中の国連の施設でお祝いをするを奨励する決議を行いました。それ以来私たちは、国連本部および世界中の国連事務所で、ウェーサクの日に世界中のすべての宗派が一緒になってお祝いすることになりました。国連が認定した、世界で唯一の「仏教徒の宗派、人種、国境を超える平和の祭典」です。ウェーサクの日、お釈迦様の祝賀のため、世界中の仏教徒と共に集まりましょう。